

多摩川(内共第13, 14号)におけるしじみ漁業の実態について

1 多摩川におけるしじみ漁業の状況

平成25年のしじみの漁業権免許以降、市場への出荷を含めて組合員によるしじみ漁業が行われていた。

しかし、令和元年の台風19号の影響等により、しじみ漁場が悪化したため、令和元年以降はしじみの漁獲が殆どない状況が続いており、現在は資源回復に向けて漁業権者がしじみの放流を行っている。

2 令和元年以前の川崎河川漁業協同組合におけるしじみ漁業の状況

(1) 操業人数・日数について

- ・安定的にしじみ漁業に従事していた漁業者は4名(組)程度
- ・上記の他、あさり漁業に合わせてしじみ漁業に従事する漁業者が数名(組)程度
- ・操業期間中、潮周りの良い日(大潮前後)はほぼ毎日出漁し、年間70～80日程度

(2) 漁獲量について

- ・1名(組)1日あたり200kg前後漁獲する。
- ・漁獲したしじみは主に市場(主に大田市場、川崎北部市場)へ出荷する。

(3) 操業時期について

- ・5月から10月が漁業の盛期だが、8月は産卵期のため禁漁としていた。

(4) 漁具、漁法について(別紙1)

- ・船で漁場へ行き、ウェットスーツを着用して鋤簾(しじみまき)により漁獲する。
- ・鋤簾に入った漁獲物はそのまま船に持ち上げて、船上で選別を行う。

(5) 漁場について

- ・別紙2のとおり

3 今後に向けた取組み

資源の回復に向け、大田漁業協同組合を中心に種苗放流が行われている(別紙3)。

今後も放流を続けるとともに、大田漁協及び川崎河川漁協で定期的に情報交換会を実施し、資源回復に向けた取り組みについて検討を進める。

(参考)平成 25 年 7 月現地視察写真



しじみの主要漁場・ねずみ島付近



鋤簾（しじみまき）による採集



しじみ採集用の鋤簾（しじみまき）



漁獲されたしじみ

